

- 小ギク生産量夏秋期日本一の平群町では需要期の安定出荷と、端境期の5～6月のシェアが低下傾向のため早期出荷が課題。
- このため県農業研究開発センター技術支援課では、**県内キク生産者組織や関係機関を構成メンバーとした「キク品種選定普及会議」を開催し、産地のニーズに合ったオリジナル品種の育成・普及推進**を行っている。
- 産地課題に対応した県育成品種の産地への導入を推進することで、生産者の経営安定や産地のさらなるブランド強化を目指す。

目標とする成果

目標を達成するための普及活動

1. 小ギクの盆時期の安定出荷

■県育成品種の普及 (R3)

- ①登録品種数 3品種
- ②作付面積 76.3a
- ③生産者数 45人



近年の異常気象により開花時期が安定しないため、最需要期である盆に安定して開花する県育成品種の導入を推進し、生産者の経営の安定を図る。

2. 5～6月開花小ギクの早期出荷

■県育成品種の普及 (R3)

- ①登録品種数 2品種
- ②作付面積 67a
- ③生産者数 56人



開花が早く茎伸長性に優れる県育成品種の導入を推進し、生産者の経営の安定を図る。

3. 新規有望品種の検索

■新規系統の現地試作 (R3)

- ①盆咲き小ギク 1系統
- ②5～6月咲き小ギク 5系統



キクは赤・白・黄の3色が必要とされることから、各色が揃うよう新規系統の現地試作を行い、有利販売に向けた県オリジナル品種の充実を図る。

令和3年

■「キク品種選定普及会議」の開催

県育成系統の選抜、現地試験系統の検討及び評価、品種登録の検討等を行う。
本会議を開催するにあたり、事前に、研究機関と普及指導員が連携して現地巡回指導を行い、各系統の適応性や農家の評価を調査した。

■県育成品種の普及拡大

講習会等の場で県育成品種の紹介や導入メリット等の情報提供を行い、産地へのさらなる普及拡大を図る。また、市場や実需者等へのPRを行い、有利販売につなげる。

■新規系統の現地試作

生産者圃場にて県育成新規系統の現地試作を行い、現地適応性(生育状況や開花時期等)の調査を行う。

関係機関との連携

・県農業革新支援センターの呼びかけにより、県(普及・研究・行政)、JA、県花き専門農協、生産者組織からなる「キク品種選定普及会議」を開催し、**生産者の意見を反映させた県オリジナル品種の育成を行う。**

・交配は県の研究機関が担い、有望系統の選抜や現地試作は生産者組織や関係機関との連携を密にして実施する。現地の生育状況や開花時期等の調査は普及組織が中心となっていく。

今回の普及活動の特徴

・県内キク産地の課題を迅速に解決するには、生産者組織や関係機関の意見を的確に反映させることが重要であり、**普及組織がコーディネートして「キク品種育成普及会議」を開催し、生産者や関係機関とともに県オリジナル品種を育成する。**

切花キク産地ブランド力強化に向けた新品種の育成・普及推進

活動期間：令和２年度～活動中

１．取組の背景

本県は小ギク（夏秋期）の生産量が日本一の産地であるが、小ギクは気象の年次変動により物日に出荷物が不足する事態が発生しており、また、端境期の５～６月のシェアが低下傾向となっている。

そこで、最大の需要期である盆時期に安定して出荷できる小ギク品種と、５～６月に早期に開花し、茎伸長性に優れる小ギク品種を育成・普及することによって産地のブランド強化と生産者の経営改善を図る。

２．活動内容（詳細）

○「キク品種選定普及会議」の開催

県育成系統の選抜、現地試験系統の検討及び評価、品種登録の検討等を行うにあたり、研究機関、行政、JA、生産者団体等関係者で検討会を開催した。本会議を開催するにあたり、事前に、研究機関と普及指導員が連携して現地巡回指導を行い、各系統の適応性や農家の評価を調査した。

年度	開花時期の年次変動が少ない７～８月咲き小ギク	開花が早く茎伸長性に優れる５～６月咲き小ギク
R2 年度	2	6
R3 年度	1	5
R4 年度(予定)	3	5

現地適応性試験取り組み系統数 （単位：系統）



品種選定普及会議

○新規系統の現地試作

生産者圃場にて県育成新規系統の現地試作を行い、現地適応性（生育状況や開花時期等）の調査を行った。



現地実証展示

○県育成品種の普及拡大

共同出荷場において、新品種の展示や講習会等の場で県育成品種の紹介や導入メリット等の情報提供を行い、産地へのさらなる普及拡大を図った。

また、市場や実需者等へのPRを行い、有利販売につなげた。



共同出荷場での新品種の展示

3. 具体的な成果（詳細）

○新系統の登録品種への出願

現地適応性試験の結果、農家から評価の高い系統から登録品種へ出願を進めるように行政と連携。

開花時期の年次変動が少ない7～8月咲き小ギク品種として、花弁が赤色の‘春日の紅’、‘春日の鈴音’、花弁が黄色の‘春日Y2（流通名：春日の星）’を出願した。

また、開花が早く茎伸長性に優れる5～6月咲き小ギク品種として、花弁が黄色の‘春日Y1（流通名：春日の光）’、花弁が白色の‘春日W1（流通名：春日の泉）’を出願した。



春日の紅



春日の鈴音



春日Y2
(流通名:春日の星)



春日Y1
(流通名:春日の光)



春日W1
(流通名:春日の泉)

○新品種の取り組み拡大

新系統の栽培面積は徐々に増加し、普及指導員のフォローアップにより畝の一部だけではなく本格的に導入する農家も育成され、令和3年の作付けは、開花時期の年次変動が少ない7～8月咲き小ギク品種は3品種 76.3a、開花が早く茎伸長性に優れる5～6月咲き小ギク品種は2品種 67a 取り組まれた。

4. 農家等からの評価・コメント

(奈良県農協・椿井宮農経済センター所長・東野充氏)

当産地のニーズに合った品種開発に取り組んでいただいている。また、選抜の過程から生産者や農協等と綿密な連携がとれる「キク品種選定普及会議」のシステムも、育成品種の速やかな普及に効果を発揮している。今後もスピード感を持って、より多くの魅力ある品種を供給していただきたい。

5. 普及指導員のコメント（農業水産振興課・係長・廣岡健司）

新系統のキクについて研究や行政等関係機関と連携しながら、生産現地へ導入を進めることで、新系統の早期の特性把握、それによる品種化の推進、普及拡大など産地の活性化につながった。

6. 現状・今後の展開等

新しい系統であるため栽培上未だ未解明な課題もあり、今後とも研究機関と連携しながら課題解決を図りたい。また、新系統の出願が相次いでいる中、今後、民間育種との棲み分けや地方公設研究機関が担う育成方針について、研究機関や行政と連携しながら、新たな系統開発および普及を行い、特徴を活かした販売・経営へつなげていく。